

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300948
法人名	有限会社 辛卯
事業所名	グループホーム 和みの家
訪問調査日	平成 20 年 10 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300948
法人名	有限会社 辛卯
事業所名	グループホーム 和みの家
所在地	鹿児島県鹿屋市西大手町8190-1 (電話) 0994-40-7855

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年10月14日
評価確定日	平成20年11月27日

【情報提供票より】平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 12日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	16 人
非常勤	1 人
常勤換算	16.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	7,500円(水道光熱費)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		600 円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井ノ上病院 まつおか歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム「和みの家」は市街地の交通や買い物など便利な場所にある。常勤職員が殆どで職員と入居者との関わりにゆとりがあり、和やかでゆったりした雰囲気での生活をしている。ホームではご家族へ「今月の様子」と題して、担当者が食事、睡眠状態、入浴、リハビリの様子、排泄、医療事項、普段の様子を詳細に書き込んだ独自の書類を作成し報告しており、ご家族の安心と信頼の絆となっている。協力機関より毎週1回作業療法士のリハビリ指導・歯科衛生士指導の口腔ケア・栄養士の献立指導など専門的な支援を受け、ホーム内では5部門の委員会を設置しサービス内容の充実を図っている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度外部評価では3項目の改善課題があり、理念の共有については具体的なケアにおいて理念にそった提供場面を共有できるよう取り組みをしている。評価の意義の理解と活用についての取り組みは全職員が理解するところまでには及ばず今後も引き続き課題として残る。職員を育てる取り組みにおいて、職員の外部研修機会を確保したり努力が見られるが職員各自に応じた段階的育成にあたる具体的な方針や計画がなされていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価の取組みは各棟において管理者、計画作成担当者が中心となり毎日少しづつ話し合いの中で評価課題を話し合い作成し、出来上がったものをケア会議にて確認している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議では入居者の状況報告、活動報告、行事予定、前年度外部評価の報告や改善に向けた取組も報告されている。その他の意見交換(火災訓練、介護記録の書式、夜間帯の利用者の危険回避の相談、室温管理、その他)が活発に行われ、それらをサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームではご家族からの意見、苦情、不安、相談など受け易いように玄関に意見箱の設置や苦情対策委員名を掲示している。その他意見が出しやすい場として家族会や運営推進会議を活用している。また重要事項説明書にも苦情相談窓口を明記し入居時には説明もされている。出された意見は職員で話し合い運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し地域行事を把握し、夏祭りや文化祭に参加している。小学校の職場体験受け入れや敬老会には地域の方が踊りのボランティアをしている。食材の購入など近所の店を利用したり、施設長はさつま芋やユリの花を作って地域の方に配ったり交流を図っている。9月から社会福祉協議会で高齢者の集いが始まり、ホームも参加する取り組みをし、地域交流を深める努力をしている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時につくられた理念であり、基本理念にサブ理念をつけて地域の中で暮らし続けていくサービスとしての役割を考えた事業所独自の理念がつけられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールに理念を掲げ、職員は毎朝申し送り時に全員で読み上げ理念に沿ったサービスの実践に取り組んでいる。毎月のミーティングでは理念に沿った運営になっているか話し合い理念の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事の情報を得て、夏祭りや文化祭に参加している。小学校の職場体験受け入れをしたり、敬老会に地域の方に踊りをしてもらったり、食材購入も地域の商店で行うなど地域の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者は自己評価、外部評価を実施する意義や狙い、活用方法を理解されているが、実際の取り組みの段階で全職員が理解して参加している状況とは言い難い。		管理者は評価の意義や狙いについて全職員に理解できるように説明をしていただきたい。評価は全職員で取り組み、日頃のサービスの見直しを行い、改善課題については改善に向けて取り組みをされることを望みます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況報告、活動報告、行事予定、前年度外部評価の報告や改善に向けた取り組みも報告されている。その他の意見交換(火災訓練、介護記録の書式、夜間帯の利用者の危険回避の相談、室温管理など)が活発に行われ、それらをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営上で疑問が生じた時電話又は直接相談できる体制であり、各種手続き、記録の書き方、看取りについて、勤務体制についてなどアドバイスをもらっている。又鹿屋市主催の文化会に参加したり、運営推進会議に出席してもらうなど交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「今月の様子」と題して入居者担当者が食事、睡眠状態、入浴、リハビリの様子、排泄、医療事項、普段の様子と7つの欄に事細かく書き込み、ご家族に報告している。訪問が無理な遠方のご家族には金銭出納帳のコピーと領収書を送付し、職員の異動はその都度挨拶状を同封している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、苦情、相談など出しやすいように玄関に意見箱や苦情対策委員名を掲示している。その他家族会や運営推進会議を活用し意見を求めている。重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、入居時には説明をしている。出された意見は職員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は法人内異動については行わないよう配慮し、職員の職場の悩みなど相談に応じ異動を抑える努力をしている。今年度管理者が退職になったが後任に在職の職員が引き継ぐなどスムーズな移行となった。離職された職員に遊びに来てもらうなど利用者のダメージを防ぐ配慮も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には都合のよい職員が申し込み参加している。内部研修も行われているが、職員各自に応じた段階的、計画的な研修の機会が確保されるに至っていない。		運営者や管理者は職員の段階に応じた育成について具体的な方針や、計画を立て勉強する機会を確保されるよう取り組みをしていただきたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に加入し管理者、職員は講演や勉強会に参加し、同業者間での意見交換をしている。又同地区のグループホームの運営推進会議に出席したり、敬老会に行ったり、お茶のみに来てもらうなど交流を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望時には自宅、デイ、入院先へ何度も訪問し利用者の状態の把握と顔馴染みになるよう努めている。</p> <p>入居前にご家族や本人に見学してもらい、他の入居者の方とお茶を飲んだり、宿泊体験を行ったりホームの生活に馴染んでもらう工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は「利用者」としてでなく「一人の人」として接し、豊かな人生経験を学んだり、共に支え合い和やかな生活になるように関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にはご家族や本人から思いや意向を聞き、入居してからは生活の場において、職員が本人の言葉や態度から思いや意向の把握をしている。ケア会議にて気づきを話し合い、ご家族に本人の状態や意向を伝えた上で再確認している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人やご家族の希望を確認し、主治医の意見を参考にしながら看護師、職員が毎日の記録を参考にし、心身の状態を確認した上で意見を出し合い、本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の期間に応じ、3ヶ月ごとに評価を行い、半年に1回の見直しをしている。本人の状態に変化があったり、ご家族の希望に変化があった場合は随時見直し、本人、ご家族、必要な関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、看護師が医療処置をしたり、通院の付き添いをするなど入院回避の支援をしている。週1回は作業療法士に来ていただき個別的にリハビリ指導を受けて身体機能の維持を図っている。又入院になった場合も早期退院に向けお見舞いに行ったり医療機関と情報交換を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の希望を確認し、かかりつけ医と緊急時の受診について決めている。看護師が定期受診に付き添い受診の状況や結果はご家族に報告している。病状の変化により病院の変更が適切とすれば、ご家族に本人の状態を説明し納得した上で変更している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療連携体制や、重度化・終末期についての対応指針の説明を行っている。看取りを行う場合は「重度化した場合の対応における指針」に関する同意書に同意を得ている。状態の変化が生じた場合は家族に報告し、主治医より説明を受け関係者の意見を聞きながら方針を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居契約時に個人情報に関する説明をし同意を得ている。管理者や職員は入居者の誇りやプライバシー確保について優しい言葉かけや羞恥心対応に配慮している。管理者は記録の管理を適切に行い、職員の入職時は秘密保持を含む雇用契約を結んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方について自分から伝える人は少なく、職員が話かけると意思表示があり(ゆっくり寝たい人、散歩したい、散髪したい、神社に参りたいなど)一人ひとりのペースを尊重して希望にそった暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前もっての献立はなく、ある材料を中心に職員は入居者に好みを聞きながらその日に献立を考え、一緒に買い物をしたり食事の準備をして楽しい食事をしている。誕生日には本人の好きな食事ができるように外食機会を設け楽しんでもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴が実施され、希望や体調に合わせて支援している。日曜日は蒸しタオルで清拭をしている。季節に合わせて冬は2日に1回程度の入浴であったり、夏はシャワーを浴びたりくつろいだ入浴になるよう柔軟に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、食台拭き、落ち着いた人の話し相手、新聞整理など一人ひとりの力を活かした役割を持ち、好きな歌や踊り、花見、遠足、誕生会などで楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は体調が良ければ歩ける人も車いすの人も殆ど毎日近くの公園、町内会の休憩所、近くのお店に買物に出かけている。時には駐車場で日向ぼっこをしたり、プランターに花の植え込みをしたり、ホーム内だけの生活にならないよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間職員が一人になる時間を除いては鍵はしていない。玄関と勝手口には安全に配慮しセンサーが設置しており、外へ出かけた人をキャッチし、引きとめることなく、職員が付き添って出かけている。万一人で出かけた場合の対処も探し方の手順を決めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いで年2回防災訓練(夜間想定)の火災訓練、避難誘導、消化通報、消火器の取り扱い、火災、地震、救急などの講話)をしている。訓練時は町内会長が参加し、会長には近隣の協力呼びかけを依頼している。		自主訓練の機会を増やされて全職員が災害に向けて自信を持って対処できるようにして頂きたい。災害備蓄についても検討されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は記録され1日分の確保ができていますか確認している。又月2回の体重測定結果と見比べながら、一人ひとりに応じた調理や食事摂取の支援を図っている。年2回献立記録を栄養士さんから見てもらい指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に囲まれるようにホールが中心部にあり、暗さをカバーするため木で梁をとり天井を高くし天窓を設け換気もできるようにしてある。光はロールカーテンで調節できる。周囲の壁はすっきりとした飾り付けで、時計や日めくりが目に入り時の認識ができる。ホールにはテレビ観賞用にソファも置かれ、一段高くなった畳の間もあるなど目的に合わせ移動する居場所がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとクローゼットが備え付けてあるが、畳の好きな人やベットが危険な人の部屋には畳が敷いてある。その他の備品(テレビは禁止)については使い慣れたタンスや椅子、毛布、大切にされている仏壇、位牌、好きな洋服などを持ち込んでもらい居心地よく過ごせるように工夫がされている。		